

**芦安小学校
学校関係者評価書
(前期)**

芦安小中学校 学校関係者評価書(前期)

令和6年9月26日(木)

芦安中学校区学校運営協議会作成

第1回芦安地区学校関係者評価委員会(第2回芦安中学校区学校運営協議会)

実施日:令和6年9月26日(木)

会場:南アルプス市立芦安中学校 多目的室

〈芦安中学区学校運営協議会委員〉

会長 清水 実 (芦安子を守る会会長)
副会長 栗原 英子(芦安小中学校PTA副会長)
委員 伊東 隆雅(芦安地区保護司)
委員 功刀 秀樹(南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)
委員 倉園 光代(主任児童委員)
委員 小林 雅人(元芦安中学校校長)
委員 塚原 利幸(芦安窓口サービスセンター長)
委員 内藤 薫 (芦安小学校保護者)
委員 名取 大介(学校応援団コーディネーター)
委員 堀内 幸江(芦安小中学校PTA会長)

〈学校職員〉

小学校 根津 盛吾(芦安小校長)
齋藤 知美(芦安小教頭)
中学校 大石 浩雄(芦安中校長 芦安地区学校運営協議会委員)
深澤 和博(芦安中教頭)

〈助言者〉

南アルプス市教育委員会 内藤 大輔(学校教育課課長)
内藤 共哉(学校教育課指導監)

1. 学校側からの提案した内容

- ① これまでの学校運営・今後の活動や取組について
- ② 芦安小中学校前期学校評価結果と今後の学校運営について
- ③ 児童生徒数・教員数の減少について
- ④ 持続可能な学校づくり(太鼓活動等の取組)について

2. 検討していただいた主な内容

① これまでの取組や活動, 今後の教育活動について

- ・他地区(早川北小学校)との交流を進めている。(小学校)
- ・生徒の意欲を高める支援を続けていく。(中学校)
- ・保護者や専門家等と協働して, 児童生徒の指導支援にあたっていく。(小・中学校)

② 小中一貫教育(活動やルール等)について

- ・きまり(ルール)については, ある程度自由な小学校と校則がある中学校の現状を考えると小中一貫校としてやっていく中で違和感を持っている生徒もいるのではないか。
- ・きまりやルールがなぜ必要なのか, 子どもたちが考える機会が必要。
- ・教職員も「きまりだから守らせる」のではなく, 本当に必要なきまりについては, 児童生徒に明確に説明できるよう, 教職員全体で共有しておくことが大切。
- ・きまりやルールについて, 児童生徒の疑問や見直したいという声を吸い上げ, 話し合い機会をもてるようにする。

③ 持続可能な学校づくりのための方策(太鼓活動)について

- ・夜叉神太鼓保存会の伊東様を招いての事前学習会は効果的だった。
- ・小中学生の体力や意欲の差がみられ, 練習方法や練習時間(現在は授業時間を活用)について検討する必要がある。
- ・太鼓の管理については, 現段階では保存会で行う。
- ・練習場所は芦安小体育館とする。(保存会の練習時の体育館の鍵の貸し出し方法を工夫したい)
- ・小中合同の練習の後に, 中学生のみの部活動として行う方法もある。
- ・教員が指導していた時代もあったが, 異動等を考えると, 持続可能な方法とは言えない。

3. 学校への意見・要望・感想等<小中>

※いただいたご意見・ご要望等については, 今後, 職員会議や小中合同会議等で共有・検討し, 学校運営の改善を図っていきたいと考えています。

(1) 学校経営・学校運営

- ①小中一貫9年間の活動への移行期だと思しますので, 時間をかけて, 先生方の働き方改革の実績をつくっていかれるのだと思います。AIに代わることのない特別な職業ですから, 効率ばかりで解決しないことが多いと思いますが, 先生方のメンタルヘルスは大きなテーマだと思います。
- ②安定した子どもたちの毎日を築くためにも, 先生方の負担が軽くなればと思います。

- ③芦安小中学校の経営・運営については、小規模校と同時に、児童生徒数が少ない問題があると思います。小規模校は地域的に現状でよいと思いますが、児童生徒数の減少については、何らかの工夫が必要だと考えられます。市をはじめ、芦安への思いがある方によりご意見があれば参考にしてみたいと思っています。
- ④先生や生徒も少ない中、今できることをしっかりやってください。

(2)学習指導

- ①人数が小中ともに少ないこともあり、体育や音楽以外の教科でも縦割りがあってもよいと思います。(先生方の負担軽減にもなるかと考えます。)
- ②先生方と児童・生徒の対話が何より大切なことと思います。これからもご指導をお願いします。
- ③先生が少ない中、小中学校が連動し協力して、ちゃんと指導しようとしているのがちゃんと伝わってきます。
- ④宿題が少ないという考え方もあれば、多すぎるという考え方もある。概ね、小学校の方が毎日出して、中学校は普段あまり出していないのではないかと。そこで提案だが、「芦安ノート」という形で、自主学習ノートを提出する方向に変えていったらどうか。
- (例) その日にあった教科ごとに授業で大切だと思ったことや覚えておきたいこと、考えたことなどを記して担任に提出させる。

(3)生徒指導

- ①芦安小中一貫校のよいところが随所に見られるが、まだ、これから先、がんばってほしい。特に先生方は大変だと思いますが、先生方同士で意見交換などを進めてもらいたいと思います。
- ②私たちが子どもの時と比べ、SNSや情報が多い時代に、子どもの多様化が進んでいます。「指導する」という圧力よりではなく、子どもに「向き合う」ということ(伴走者となること)が大切だと思います。こちらもよくやったださっていると感じられました。
- ③学校生活のきまり(芦安中スタンダード・当たり前十か条)については、生徒・児童にこれからも考えさせていくことが大切だと思う。

(4)保護者・地域との連携

- ①児童の色を見ながら柔軟にシステムも数年ごとに見直すなど、伝統×時代の柔らかさが必要だと思います。
- ②コロナ感染で行事が減ったせいか、地域と保護者の皆さんと顔合わせが少なく、対話の機会がないのが残念です。何かの折に、もっと地域と保護者の皆さんが対話できればよいと思っています。
- ③連携はとてもできていると思いました。

④教職員や保護者も含め、子どもたちの成長を願う気持ちに変わりはない。資源(お金・時間等)は限られているので、一緒にどんな教育活動を行っていくか知恵を絞りたい。

(5)学校の特色ある取組

- ①少人数の学校ですから、生徒の色が濃く出る(良くも悪くも)ので、その時々で変更していく柔軟な方針でいいと思います。
- ②小中一貫校として、より強く主張できるものがあればよいと思います。
- ③今のままでよいと思います。
- ④登山・太鼓, 少ないながらの修学旅行, 各社会科見学, どれをとっても特色があり, 普通の授業も十分に特色があります。
- ⑤自然体験活動, 太鼓活動, 小中一貫教育が芦安小中学校の特色であり, 魅力である。三本柱を中心として, その魅力を発信していきたい。このことが, 児童生徒の増加につながるとよい。

(6)その他、気づいた点など

- ①芦安小中学校のよさをもっと広めていただけたらと思います。
- ②いつもありがとうございます。
- ③学校評価の項目を精選し, すべてを網羅する必要はないと思う。年度ごとに重点項目を設定し, 全職員・全児童生徒が意識的に取り組むことで, 充実した学校運営につながっていく。市共通の項目を入れて, 思い切って8項目ぐらいでどうだろうか? 他にあれば自由記述とする。そうすれば, 教頭先生をはじめ, 教職員の負担も少なくなるはず。

4. 分析・評価(改善点)

○自己評価に関して学校運営協議会委員の方々から得られた指導・助言・感想等を真摯に受け止め, 1つ1つの項目について児童生徒の実態を踏まえて具体的な手立てを講じながら学校運営の工夫・改善を行うとともに, 学校教育目標の実現に向けて「芦安郷育」及び「小中一貫教育」をさらに推し進めていきたい。

○今年度は, 校内研究のサブテーマを「個に応じた指導から子ども主体の学びへ」として, 小中教職員が課題別(英語活動・道徳)研究会に所属し, 小中合同で研究を進めている。児童生徒の主体性を育てる仕掛けや工夫等について研究を進め, 児童生徒にとって「楽しい授業」「わかる授業」を実現していきたい。

○昨年度から引き続きの課題である家庭学習の改善に向けては, 家庭学習の目標を明確にして, 小中が連携して取り組む。そして, 児童生徒の自主性や調整力を育てていきたい。また, 今年度, 学校では, 「GIGAワークブック」を活用した授業や関係機関と連携しての「SNS学

習会」等に取り組み、情報モラルも高めているが、ICT機器の長時間の利用による視力低下・悪姿勢等を防ぐための取組も進め、家庭生活の改善にも取り組んでいきたい。

○市から児童生徒に貸与されている一人一台端末については、学習・授業で積極的に活用しているが、「学習用」の端末であることを児童生徒に指導し、端末を、どんな場面で、どのように活用するのかを児童生徒自身で判断・行動できる力を育成していきたい。

○子どもたちの人間関係づくりに不安を抱いている児童・生徒・保護者が一部いることを踏まえ、生徒一人ひとりとの対話を大切にし、コミュニケーションを積極的に行うことで児童生徒理解に努めていきたい。また、不登校傾向による別室指導が必要な児童生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない児童生徒に対して、職員全員で今後の指導・支援方針を明らかにする中で丁寧に対応すると同時に、今後も継続してスクールカウンセラー等の専門家に指導・助言をあおぎ、日々の微妙な変化の見取りを大切にしながら、よりきめ細かい対応をしていきたい。

○地域や保護者との日常の対話を大切にしながら、家庭訪問・面談・電話連絡・アンケート等で、学校への意見や要望等の吸い上げを積極的に行って学校運営に生かす。また、同時に、学校ホームページや学校だより・学級通信等で定期的に学校の教育活動の情報発信を行う。その都度、児童生徒のよさ・成長の様子、必要な情報等を、面談やメール・電話(地域には回覧板)等を使って連絡を取り合いながら、今後も継続した連携に向けて情報共有を図っていききたい。

○芦安小中学校の特色である自然体験活動として、これまで学校林整備・太鼓活動・自然学習・登山学習等の活動を関連団体と連携しながら、計画的に仕組むことができた。しかし、児童生徒数の減少に伴う教職員の減少、特性のある児童生徒の増加等を考えると、今後も同様な活動を仕組んでいくことが難しい。年間行事の見直しも含め、児童生徒の実態に合った実施方法・内容等を考えることが「持続可能な学校づくり」につながる。